

2012年 6月 刊行予定

# 阿蘇下野狩

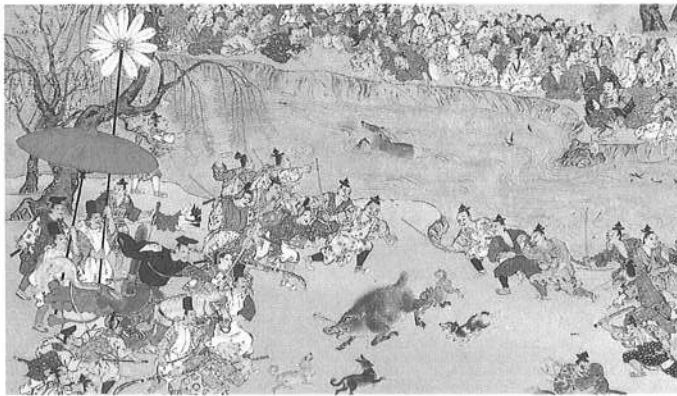
## 史料集

飯沼 賢司 (別府大学教授) 編

阿蘇の五岳の西山麓に広がる広大な原野、下野。そこで中世に行われた「下野狩神事」は、源頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされている焼き狩神事であり、阿蘇宮最大の重要行事であった。その史料である、永青文庫所蔵『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵下野狩関連史料を翻刻。解題、用語解説を付す。

A5判・328頁／定価 7,875円(税込)  
ISBN978-4-7842-1611-6

〇〇内容目次〇〇



下野狩図(阿蘇家所蔵・部分)

永青文庫所蔵『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』の解題  
阿蘇家所蔵下野狩関連史料の解題

### 一、永青文庫所蔵下野狩関連記録

- 1 下野狩日記 上(二)
- 2 下野狩日記 下(三)
- 3 下野狩旧記抜書(一)

### 二、永青文庫所蔵下野狩関連文書

- 1 下野三狩矢野茂左衛門覚書写
- 2 板書
- 3 宮内権大輔真楯書状
- 4 下野之三狩書物之抜書写
- 5 下野狩由来写

### 三、阿蘇家所蔵下野狩関連史料

- 1 天保十三年下田能延へ送る抜書写
- 2 下野御狩記録抜書写
- 3 下野御狩三物替事
- 4 下野之三狩書物抜書写
- 5 下野狩并山神祭作法写
- 6 下野狩根本記写
- 7 下野狩由来記写
- 8 下野狩再興願記録
- 9 鷹山下野御狩鹿立鹿蔵地名比定書



(同上)

史料の用語・地名等の解説  
阿蘇系図  
下野狩関連地名推定図

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	阿蘇下野狩史料集	本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1611-6	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

## 熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁/定価9,450円

ISBN978-4-7842-1458-7

## 中世長崎の基礎的研究

外山幹夫著

中世長崎、特に肥前国西南部の松浦郡・高来郡・彼杵郡に着目し、松浦氏・有馬氏などの在地武士団の成立・発展、領国支配の実態や南蛮貿易の推移について論じ、その独自性を明かす。長崎大学名誉教授、長崎市史編さん委員会委員長を務める著者が長年の研究成果をまとめた一書。

▶A5判・424頁/定価7,875円

ISBN978-4-7842-1589-8

## 天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

三島暁子著

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び権威のシンボルとなった「笙」。本書では、皇室・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という三者の関わりの中から、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。

▶A5判・360頁/定価6,930円

ISBN978-4-7842-1609-3

## 日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1572-0

## 室町期東国社会と寺社造営

小森正明著

思文閣史学叢書

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動—寺社領経済—の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

▶A5判・356頁/定価7,350円

ISBN978-4-7842-1421-1

## 棟札の研究

水藤眞著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示した一書。

▶A5判・230頁/定価3,990円

ISBN4-7842-1243-4

## 太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

時代を超えて、上下を通じた諸階層の篤い崇敬を得てきた、聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態等を宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1473-0

## 神社継承の制度史

梶山林継・宇野日出生編

神社史料研究会叢書V

【内容】名神の研究(山本信吉)/石清水八幡宮の祭祀と僧俗組織(西中道)/若狭彦神社の神仏関係(嵯峨井建)/吉田兼右の神道伝授と阿波賀春日社(宮永一美)/中近世移行期伊勢神宮周辺地域の経済構造(千枝大志)/御棚会神事と賀茂六郷(宇野日出生)/近世初期における加賀藩の神社統制(鈴木瑞麿) など

▶A5判・348頁/定価7,875円

ISBN978-4-7842-1418-1

## 社家文事の地域史

棚町知彌・橋本政宣編

神社史料研究会叢書IV

【内容】『守武千句』の時代(井上敏幸)/中西信慶の歌事(神作研一)/伊藤栄治・永運のこと(川平敏文)/中島広足と本居宣長(吉良史明)/伊勢御師の歌道入門(加藤弓枝)/北野宮仕という歌学専門職集団の組織と運営の実態(棚町知彌)/北野社家における歌道添削について(菊地明範)/近世における地方神主の文事(橋本政宣) ほか

▶A5判・376頁/定価7,875円

ISBN4-7842-1257-4

## 祭礼と芸能の文化史

園田稔・福原敏男編

神社史料研究会叢書III

【内容】神社廻廊の祭儀と信仰(松尾恒一)/相撲節会と楽舞(廣瀬千晃)/中世諏訪祭祀における王と王子(島田潔)/鹿島神宮物忌職の祭祀(森本ちづる)/越前志津原白山神社の祭礼芸能(宮永一美)/武蔵国幕閣大名領における祭礼の振興(園田稔・高橋寛司)/近世鶴岡八幡宮祭礼としての面掛行列(軽部弦) ほか

▶A5判・300頁/定価6,825円

ISBN4-7842-1159-4

## 社寺造営の政治史

山本信吉・東四柳史明編

神社史料研究会叢書II

【内容】神社修造と社司の成立(山本信吉)/建武新政期における東大寺と大勧進(島山聡)/金沢御堂創建の意義について(木越祐馨)/戦国期能登島山氏と一宮気多社の造営(東四柳史明)/中近世移行期における寺社造営の政治性(横田光雄)/両部神道遷宮儀礼考(松尾恒一)/近世出雲大社の造営遷宮(西岡和彦) ほか

▶A5判・312頁/定価6,825円

ISBN4-7842-1051-2

## 口頭伝承と文字文化 文字の民俗学 声の歴史学

笹原亮二編

「口頭伝承を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いに注目し、新たな研究方法について論じた意欲作。

▶A5判・444頁/定価7,350円

ISBN978-4-7842-1447-1

## ※上賀茂のもり・やしろ・まつり

大山喬平監修/石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

古文書・古記録をはじめ建築や神饌などの姿・形のなかに古い神社と失われた日本文化が受けつがれている上賀茂神社。平成18年3月に神社所蔵の約14,000点の文書が重要文化財に指定されたことを記念して、同社主催の歴史文化講座の成果をまとめ、上賀茂神社をめぐる神事・歴史・文化をわかりやすく紹介。

▶A5判・412頁/定価2,940円

ISBN4-7842-1300-7

## 鎮守の森の物語 もうひとつの都市の緑

上田篤著

「鎮守の森はひとびとの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体である」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森に実際に歩いた探訪記録。地球環境と自然保護という21世紀を生きる人類への課題ととりくみを、都市にもある緑のオアシス「鎮守の森」の重要性とその現状を通して提言する。

▶A5判・300頁/定価1,785円

ISBN4-7842-1155-1

## 中世蹴鞠史の研究 鞠会を中心に

稲垣弘明著

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じた一書。応仁・文明の大乱後の15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参会者として加えた場により遊興性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明らかにした。

▶A5判・300頁/定価5,775円

ISBN978-4-7842-1390-0

## ※王権と神祇

今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について、実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることに、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。

▶A5判・348頁/定価6,825円

ISBN4-7842-1110-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。